



発行責任者 西川 晃二

【校長室より】

目を離すな 心を離すな

9月は学校最大の行事とも言える体育祭、文化祭（五高祭）が実施されました。今年は8月後半から全国的に大荒れの天候となり、県下各校体育祭の実施については中止、順延、また順延と苦しい決断を迫られました。本校も9月1日実施を直前で断念、2日後の3日（火）に、中央体育館にて実施したところです。開催場所が体育館となり、生徒たちにとっては、中途半端な体育祭にならないかと懸念されたところでしたが、実行委員及び3年団を中心にした生徒たちの活躍により、見事な「祭」が演出されました。全団員集合の「サークル」から閉会式と、最後には生徒全員が肩を組み合わせ、学校全体の団結の深まりが感動を呼びました。

そして、翌週には文化祭（五高祭）です。これまた、昨年にも比して水準が高い文化祭でした。昨年も非常に感心させられましたが、まずもって今年の場合は、第1にテーマの創造性が特筆されます。「希望（みち）～歩みを止めるな今の自分」がテーマでした。これは、「常なる挑戦」そして「常なる前進」を果たす若者の気概と精神に満ちています。高校生の作り出したテーマとしては最高水準のものと実に誇らしく思います。第2は、ステージ部門、展示部門の質の高さです。大テーマを意識した、工夫を凝らした発表、展示ばかりだったと褒め称えたいところです。

体育祭、文化祭（五高祭）は、五高生の誇りと自信を見せつけた、すばらしい「祭」でした。なお、「誇り」「自信」には裏付けが必要なのは言うまでもありません。根拠なき自信、根拠なき誇りに囚われぬよう、日々の努力、研鑽を積み上げてほしいと期待します。

.....

アメリカインディアンの間に「子育て四訓」というものがあるそうです。それは次のようなものです。

- 一、乳児はしっかり肌を離すな。
- 一、幼児は肌を離せ手を離すな。
- 一、少年は手を離せ目を離すな。
- 一、青年は目を離せ心を離すな。

子育て、教育にはタイミングというものがあります。教育現場ではよく言われる「発達段階に応じた指導」でしょうか。水を飲みたい牛を水飲み場に連れて行き、強引に水を飲ませようとしても、いっかな飲んでくれないでしょう。子どもが飲みたい、知りたいと思うタイミングを見計らうことができるかどうか、さらに言えば、時機に応じて子どもが飲みたい、知りたいという「気」にさせることができるかが親の、教師の役割です。禅宗の書、「碧巖録」の言葉に「啐啄同時」というものがあります。「啐」とは、卵の中のヒナ鳥が殻を破ってまさに生まれ出ようとする時、卵の殻を内側から雛がコツコツとつつくことをいい、ちょうどその時、親鳥が外から殻をコツコツとつつくの「啄」といいます。雛鳥が内側からつつく「啐」と親鳥が外側からつつく「啄」とによって殻が破れて中から雛鳥が出てくる。両方の機縁が一致して雛が生まれる。「機を得て両者相応じる得難い好機」のことをいうのです。人間の親子の関係に、生徒と教員の関係にも、この「啐」と「啄」の間合いは非常に大事なことです。

今まで、子どもたちの問題行動に対面するたびに、愛情の不足、欠落により出来る事案には納得させられるものの、かたや愛の豊饒によりも引き起こされることに、正直合点が行かぬ思いにとらわれていました。親の愛に抱かれ、何不自由なく育てられているのになぜ問題行動を起こすのか。それに対する回答としても、この四訓は私には受け止められました。さらに、古来の成長儀式（七五三や元服式）の意味するところが、単に祝うだけではない、深い意味があることにも気づかされるのです。時機に応じた子育てがいかに重要であり、見誤ると大事を招くのです。学齢に応じた時機時機に、子どもに対しては、教えの場、告知と修練の場というものを設定すべきであると改めて思う次第です。

五高祭 7日(土)・8日(日)

今年度の五高祭では新しい試みとして「文化部コラボレーション」を行いました。各文化部が、それぞれの部活動の展示・発表とは別に五高祭に関わりました。美術部のポスター作成、イラスト部のマスコットキャラクターとロゴ作成、写真部のうちわ作成、パソコン部のボーカロイドによる開会宣言など、全ての文化部が五高祭に彩りを与えました。各クラス、教科、有志もテーマに沿った企画を準備し、五高祭を盛り上げました。

また、実行委員35名はそれぞれ音響専門部や舞台装置専門部といった専門部に所属し、専門的な技術を身につけた上で五高祭の運営をスムーズかつレベルの高いものに仕上げました。特に各セレモニーでは、それぞれの専門部の技術を駆使し、五高祭テーマである『希望(みち)～歩みを止めるな今の自分～』を様々な角度から表現しました。

今年度も「屋外特設ステージ」を設けました。実行委員の企画により、会場は大いに盛り上がりました。飲料バザーや食物バザー、リサイクル品バザーも大盛況で、予想以上の売り上げでした。ご協力いただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

五高祭は、様々な人の協力で成り立つ行事です。五高祭に関わった多くの人たちに心より感謝いたします。



五高祭実行委員長

2-1 中村 夏望

五高祭で私たち実行委員は、全力を出し切ったと思います。

テーマ発表からすでに五高祭は始まっていて、夏休みの間も実行委員で集まって話し合っていました。意見が出なかったり、実行委員の間で温度差を感じてしまうこともありました。

しかし、五高祭に近づくにつれ、皆の顔つきが変わっていきました。それぞれ任された仕事をこなし、より良い五高祭にしようという姿勢を見せてくれました。

「希望～歩みを止めるな、今の自分」というテーマのもと、全校生徒・観客の方に希望を与えようと奮闘しました。オープニングで問いかけ、エンディングで実行委員なりの答えを叫びました。そして実行委員長が語りました。緊張して台詞が飛んだ部分もありましたが、伝えたいことは伝えられたと思います。紙飛行機に書いた実行委員たちの言葉も含め、皆さんの心に届いている事を願います。本当にありがとうございました。



モザイクアート最優秀賞

2年4組

サッカー部顧問の担任とサッカー部キャプテンがいるため、サッカーに関連するものを題材にしようという声があがり、「サッカー日本代表の本田選手と香川選手」を描くことになりました。作成には皆の協力が必要なので、「クラス活動」の時間を使いましたが、クラスの出し物と並行して準備を進めていくことはとても大変でした。そのため、最優秀賞をとれた時の喜びは大きかったです。

二年生には、修学旅行という大きな行事が残っていますが、今回の経験を生かして皆で協力し合ってよいものにしたいと思います。また、今よりも良いクラスになるよう行事だけでなく勉強にも力を入れて頑張ります。



第62回体育祭 3日(火)

6月の考査終了後の実行委員決定から、団長の立候補や決定。また、テーマや団色決定、実施要項・競技種目の検討など、実行委員にとって多忙な毎日が始まりました。

8月からは、団長を中心として生徒の活動が始まりました。3年生は学習合宿後から企画書作りを始めましたが、机上での構成と実際にグラウンドで動くギャップに苦労していました。また、リーダーとして大勢の生徒を動かすことの大変さや、チームワークの大切さを実感したようでした。

雨天のため、体育館での開催となりましたが、五高生は五島高校のパワーを発揮してくれました。今後も、ひたむきに、一途に一心に、五高生として輝いてくれるはずです。



結 果

総合優勝 黄団

応援・団別演技優勝：黄団 応団幕・行進優勝：赤団

体育祭実行委員長 西津大志

今年度の体育祭は、五島高校の歴史でも稀な体育館での開催となりました。

雨の中での体育祭でしたが、私は実行委員長として、実行委員と共に準備から本番まで精いっぱい頑張ることができたことを誇りに思っています。7月からは毎日が多忙で、とても大変でした。胸を張って努力したと言えますし、何より楽しく充実した時間を過ごすことができました。

先程言ったように体育館での開催となり、初めは残念でした。天気のようにモヤモヤとした気持ちでしたが、皆さんの笑顔のおかげで晴れ晴れとし、何よりも大成功させることができたので、何一つとて悔いはありません。

ここで、皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、感謝の気持ちです。皆さんの協力があったから、体育祭は成立しました。皆さんの楽しもうとする気持ちがあったから成功しました。本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

三年生のみんなはこれから新たな笑舞（しょうぶ）です。全員で一丸となって、頑張っていきましょう。

赤団団長 今村義輝

今年の体育祭は、みなさんにとってどうだったでしょうか。私にとって今年の体育祭は「成功させなければならぬもの」でした。

団長になってからの一ヶ月、このような思いを持ちながら体育祭に取り組んだつもりです。いろいろ苦労もありましたが、みんなが一生懸命に練習する姿を見ると、「頑張ろう」という気持ちになり、あらためて仲間の大切さを知ることができました。何かに一生懸命に取り組む姿は、人に元気を与えます。一生懸命することはきつくて難しいですが、私もこれからの人生、少しでも他人を元気づけていけたら良いなと思います。

赤団のメンバーは個性的で、多少まとめるのに苦労しましたが、本当に最高のメンバーでした。いろいろ迷惑をかけた時もありましたが、最後までついて来てくれて本当にありがとう。



黄団団長 松本博治

9月1日の朝、天気はよくなく、今にも、雨が降りそうな雲でしたが、僕の心はワクワク感に満ち溢れていました。台風がいつのまにか消えていたことと、雨が降っていないことが、体育祭に向けての気持ちをより高めました。そんな中での延期は正直辛かったです。さらには、体育館での開催となり、黄団のみんなで広いグラウンドで型や団別を披露できないことが悔しくなりました。しかし、体育祭が始まると、みんなで声を掛け合ったり、踊ったりして、すごく楽しむことができました。準備期間に積み重ねてきたことを、全員で表現することができた。笑舞（しょうぶ）することができた。黄団の一人ひとりに感謝したいと思います。本当にありがとう。

一生の思い出となりました。お疲れ様でした。

青団団長 祝 貴之

先日、無事体育祭を成功し、終えることができました。これも支えてくださった先生方、保護者の皆様、素直に指示を聞いて共に体育祭を作り上げてきた1、2年生のおかげです。本当にありがとうございました。

本番は、あいにくの雨で、中央公園の体育館での実施でした。いつもと違う環境での体育祭となり、少し戸惑ったところもありましたが、最後まで力を出し切ることができたと思います。結果は、去年と同じく、青団はタイトルをとれずに終わりました。正直、ついてきてくれた1、2年生には申し訳なかったです。でも、解団式では、みんなが楽しみ、笑って終えることができたので、とてもうれしかったです。

これからも、笑舞（しょうぶ）にこだわり、五島高校を盛り上げていきましょう。体育祭、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



一日救急隊長 10日(火)



平成25年度「救急医療週間」に伴う行事の一環として、一日救急隊長に衛生看護科3年生の宗彩花さんが任命されました。五島消防署内で救急車の説明を受けた後、実際の救急搬送の流れについて学びました。その後、ダイキョウバリューに移動し、一般市民向けの啓発広報運動を行い、広く市民の皆様は救急医療について理解していただくよう呼びかけました。

感想 衛生看護科3年 宗 彩花

私は今回一日救急隊長として、救急医療について学びました。救急車・通信司令室の見学や模擬出場訓練を体験させていただきました。特に模擬出場訓練では、救急隊員の方の的確な指示や作業の速さにとても驚きました。また、家族へも状況を簡潔にすることで家族の協力も得やすくなると思いました。五島では救急車が出動して到着するまで約七分かかるそうです。私たち一人一人が正しい知識を身につけて市民の方に理解していただくことで、多くの方の命を助けることに繋がると思いました。



親子ふれあい活動(11・12・13日)

1年生普通科を対象に、本校セミナーハウスで「親子ふれあい活動」を実施しました。

「親子ふれあい活動」は、乳幼児親子に高校へ来ていただき、乳幼児親子と生徒がふれあいの時間を持つ取り組みです。乳幼児の親御さんからの妊娠中の様子や子育ての楽しさ・苦労話、乳幼児との遊びをとおして、自分の生い立ちを振り返り命の尊さに気づくよい機会となりました。



＜生徒感想より＞

子どもがとてもかわいかったです。お母さん方の話を聞くと子育ては大変なんだなと思いました。いつでも子どものことを考えて、自分よりも子どもを優先していて、お母さんはすごいなと思いました。妊娠や出産の話を聞くと、辛そうだな、怖いなと思いました。でも子どもが生まれた時の喜びはとても大きくて、痛みなんか忘れてしまうと話していて、お母さんは強いと思いました。赤ちゃんを抱っこさせてもらった時に、とても温かくて、こんなに小さいのに一生懸命生きているんだなと思いました。命の尊さを感じました。この活動を通して、親の偉大さや命の大切さを学びました。自分を生んでくれた母に感謝したいと思いました。

読書感想文コンクール 24日(火)

9月24日(火)のLHRの時間に、1・2年生を対象とした、校内読書感想文コンクールを実施しました。このコンクールでの対象作品は、生徒の皆さんが夏休みに書いた読書感想文の中から選ばれた6点です。その結果は以下の通りです。

最優秀賞

「死」が教えてくれたこと。 2年 白濱 彩季

優秀賞

努力のみなもと 2年 坂口 舞子

「死」から学ぶ生きる意味 1年 松本 沙織

佳作

夢への挑戦 2年 洗川 沙希

目に見えない 2年 谷川 ひかり

「いのち」を考える 2年 川上 美紀

五高祭・体育祭バザー お礼

3日に体育祭における飲料バザー、9月8日に五高祭における食物バザー・リサイクルバザー・飲料バザーを実施しました。当日は、ご多忙の中、たくさんの保護者の皆様に調理・販売のお手伝いをいただきました。また、事前の物品提供や準備に関しましても、保護者の皆様にはたくさんの御協力をいただきました。購入いただいた皆様方も含め、改めてお礼申し上げます。

来年度は、今年の経験を生かし、生徒・地域の皆様によりお楽しみいただけるバザーを目指したいと思います。御協力ありがとうございました。